

松田で菜の花摘み取り観光

ミカン園経営者が来春オープンへ

足柄平野や相模湾、富士山などを一望する松田山の高台に、食用の菜の花の摘み取りが楽しめる新しい観光名所が誕生しつつある。

松田町松田惣領のミカン園経営内藤信明さん(71)は、10日から春の行楽客を迎えるため現在、菜の花の手入れに励んでいる。今後は散策路を整備するなどし、来春から

の正式オープンを目指す。菜の花は、約120アールの農地の半分ほどに植えられ、早くも見ごろを迎えている。内藤さんは、ミカン畑だった土地を改良。4年前の秋に初めて種をまき、いまでは山の斜面一面に咲きそろったほどの規模となった。観賞する以外の楽しみとして、

に、内藤さんはこの場所を「あぐりパーク嵯峨山苑(さがやまえん)」と名付けた。海拔2500、2600と高い位置にあり、絶景も魅力の一つ。インシンやシカなどが入って畑や樹木を荒らさないよう、同苑の周囲には電気柵(さく)が張られている。内藤さんは、5年ほど前に四国へ旅行した際、

く、茎も太い。摘みごろは花が咲く直前で、先端から根に向かって12〜15ほどの部分を折る。ゆでたり炒(いた)めたり、漬物、天ぷらなどがおいしい。

瀬戸内海を見下ろす菜の花畑を訪れ、地元にも名所をつくりたいと感じたという。数年間の試行錯誤を経て昨年、試験的にお客を運んだところ、「景色が素晴らしい」「摘み取りが楽しい」など大好評だったという。

同苑の菜の花は、食用のため無農薬で育てられている。1株は高さ1メートル、葉が大きい。問い合わせは、内藤園(☎0465-82-1423)へ。



松田山で摘みごろを迎えた菜の花